

萩にあしあと残そよ

「新型コロナウイルス感染拡大」



指月公園（萩城跡）にある桜
日本で唯一のミドリヨシノ

〔あしあとノート〕

◆秋吉台の山焼き◆

美祢市で春の風物詩「秋吉



黒焦げの大地の色と、白い石
灰岩とのコントラスト。

台の山焼き」が、二月二三日に実施されました。直後の景色を見たかったので、一週間後に車を走らせて行つてきました。焦げたにおいの残る広大な景観に感動しました。

◆献血協力◆
輸血用の血液が足りないというニュースを耳にし、インターネットで調べたところ、萩市に献血車が来るという情報を得ました。健康な自分にできる、ささやかなボランティアということで、四〇〇ml献血をしてきました。



歌人斎藤茂吉もこの場所を訪ねたかもしれません。

◆柿本人麿生誕地◆
今から約一三〇〇年前、天武・持統・文武の三天皇に仕えた宮廷歌人で、万葉集に数多くの長歌・短歌を遺している柿本人麿（人麻呂）。島根県益田市に生誕地があり訪ねました。碑の後方には御廟所（遺髪塚）もあり、人麿の遺髪が埋葬されていると言い伝えられているそうです。また、近くには戸田柿本神社もあり、参拝することができました。

◆献血協力◆

輸血用の血液が足りないというニュースを耳にし、インターネットで調べたところ、萩市に献血車が来るという情報を得ました。健康な自分にできる、ささやかなボランティアということで、四〇〇ml献血をしてきました。

◆岩国錦帯橋の桜◆

迷いましたが今年の桜を見にドライブしてきました。



少し早いながら川瀬巴水が描いた景色が見られました。

〔仕事はどうだい？〕

新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、私の仕事にももちろん及んでいます。不安

を述べれば、県内各地を営業で回るため不特定の人々との接点が多いことや、得意先の商品も売れないことです。そして、みなさん同じだと思いますが、先行きが見えないことがへの不安がもつとも大きいです。

写真は、得意先にお渡しした販売促進用の掲示物です。少しでも目に触れて、手に取っていただけるよう工夫したいたいと思っていますが、なかなか難しいものです。

一手にて
オセロが白に変わるように
予定が消えた肺炎の波
(二月二七日)

牛乳の容器彩る雪消えて
名橋に咲く桜となりぬ
(三月五日)

雨上がり待つて走れば
東光寺にヨウコウザクラ
門を彩る
(三月一四日)



私の代わりにお客さんに
アピールしておくれ！

鳥啼くを聴きて
郷愁極まり
かの山谷を思い出づれば
(三月二十四日)

部署は異なりますが、四月には新人が数名入社します。私ももうすぐ二年生。

春分も過ぎて、ぐっと日が長くなり、暖房や厚着が不要の日が多くなりました。また、あちこちで様々な花を目にするようになって、四季が一巡したことを実感しています。しかし、新型コロナウイルスの感染予防対策で、行事の中止や公共施設の閉鎖などがあります。なかなか思いどおりに過ごすことができないのは残念でもあります。一日でも早い収束を願いつつ、体調管理をしっかりとやっていきます。

- ◆行事が次々に中止◆
参加等を予定していた行事が、次々に中止となりました。
一日：秋吉台のマラソン
八日：真ふぐ祭り
十五日：しろ魚まつり
二一日：萩往還ウォーク

「ま・な・び の記録」

『古地図を片手に、

ぶらり萩あるき』

（萩城三の丸 A コース）

広報はぎに掲載されていた
市民モニターツアーに申し込
んで参加しました。まずはガ
イドを務める人々の紹介を。

◆ チーム歩隅見（あすみ）

名称の由来は、歩きながら
隅々まで見ましようという意
味。平成二九年（二〇一七）

九月に活動を開始しました。

山口県の呼びかけで「古地図
を片手に、まちを歩こう。」と
いうガイドツアーの取り組み
を、県内二八コースでスター
トしたのがきっかけです。チ
ーム歩隅見は約十人のメンバー
で活動しており、今回初め
て市民向けのモニターツアー
を企画したことです。

* * *

三月二八日、午後一時三〇
分の出発時には、天気予報ど

おり雨が降り、気温も十度前
後と肌寒い中、傘をさしての
散策となりました。



ガイドの植木さん

◆ 城下町が残っている理由

江戸時代の萩城下の町割り
が現在に残っているのはなぜ
なのでしょうか？その主な理
由は四つあります。

◎ 三角州だったから

関ヶ原の合戦で徳川に敗れ
た毛利氏が萩に入り、干拓を
進めながら城下町を作りました
が、三角州は上流部と海岸
に近い部分は盛り上がり、中
央部は低湿地でした。このた
め、中央部には農地や蓮田が
広がり、大雨の時の遊水池の
役割を担いました。時が流れ
て市役所など行政機関やショ
ッピングセンターなどが中央
部に整備されたため、古い
町並みは区画整理されること
なく残されました。

◎ 鉄道が通らなかつたから

大正一四年（一九二五）に
山陰本線が整備されるにあた
り、二年前に萩町と合併した
三か村に駅を配置することと
なりました。これにより、鉄
道は三角州の外側を通ること
となり、城下町が破壊される
ことがなかつたのです。

◎ 平安古（ひやこ）の総門前

平安古（ひやこ）の総門前
外堀に架けられたものです。
明和年間（一七六四～七一）
に造られたものと推測されま
す。吊り桁・定着桁を備えた
構造の無橋脚の珍しい橋で、
自動車が走る今も現役の橋と
して利用されています。



橋桁 6.04m、幅 3.95m
好きな場所のひとつです

◆ 平安橋（へいあんばし）



◆ ひかりつけ工法

柱や土台を基礎の石の
凸凹の形に合わせる技法



このような遺構は教えても
らわないと気づかないもの



積み方で、そこに何があつ
たかを推測するそうです

◆ こんな場所を歩いたよ！

降昭和四〇年代までまさに主
要産業として萩の経済を支え
てきました。もともと困窮し
た士族の救済を目的に栽培さ
れるようになつたことから、
武家屋敷地は夏みかん畑とし
て活用されました。そして、
長屋や土塀が風よけの役割を
果たしていたことから壊され
ずに残つたことで、区割りが
ほとんど変わることがありま
せんでした。

◆ 様々な時代が混在
下の段は江戸時代築と思わ
れ、その上に積み直したり積
み増したりして、あたかも歴
史年表を見ているかのよう。